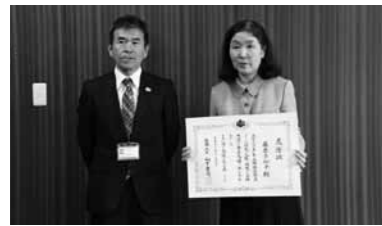


藤原多加子人権擁護委員
感謝状贈呈式



▲早戸松江地方務局出雲支局長から藤原さんへ感謝状が贈られました

4月15日、役場仁多庁舎で人権擁護委員として活躍された藤原多加子さんに松江地方務局出雲支局長から感謝状が贈呈されました。

藤原さんは平成21年4月1日に委嘱されてからおよそ10年にわたり、町民の人権擁護や相談業務、人権思想の普及高揚に尽力されました。

10年間ありがとうございました。

船通山のカタクリが開花



▲春の訪れを知らせるカタクリ

今年も4月下旬から5月上旬にかけて、船通山でカタクリの花が開花しました。

連休中は、薄紫の可憐な花を見るために大勢の登山客が訪れ、山頂でそれぞれ春の訪れを満喫していました。これから登山シーズンが到来します。この優れた自然の風景地を守り、正しいマナーで登山を楽しみましょう。

鬼の舌震川開き安全祈願祭



▲奥出雲町商工会女性部が鬼の舌震音頭を披露

4月25日、鬼の舌震で奥出雲町観光協会主催の鬼の舌震川開き安全祈願祭が行われました。地元関係者20人が出席し、シーズン中の安全と観光振興を祈願しました。

祈願後、三成・三沢幼稚園児によるヤマメの放流が行われ、「大きくなってね」のかけ声と共に大馬木川にヤマメを放流しました。

また、今回は約40年ぶりに奥出雲町商工会女性部による鬼の舌震音頭が披露され、祈願祭を一層盛り上げました。

三成発電所リニューアル



▲リニューアルされた三成発電所

三成発電所は、昭和28年10月15日の運転開始から地域に再生可能エネルギーを利用した電力を供給してきました。しかし、老朽化のため、島根県企業局が平成28年10月より総事業費約13億9千万円をかけてリニューアル工事を行い、4月9日の竣工式で運転を再開しました。

また、三成発電所が取水している「三成ダムは日本初のアーチダムとして平成27年に日本土木学会の土木遺産に認定されています。

日本農業遺産認定証授与式



▲東京・農林水産省7階講堂での日本農業遺産認定証授与式の様子

日本農業遺産は、我が国において将来に受け継がれるべき伝統的な農林水産業を営む地域（農林水産業システム）を農林水産大臣が認定する制度です。今回新たに7地域が認定され、日本農業遺産の認定地域は、15地域となりました。

本年2月15日、「たたら製鉄に由来する奥出雲の資源循環型農業」が日本農業遺産に認定されました。4月19日、認定証授与式が東京・霞が関で開催され、吉川農林水産大臣から奥出雲町農業遺産推進協議会会長の勝田町長に認定証が授与されました。

奥出雲地域は、500年以上にわたり、たたら製鉄の原料である砂鉄を採掘してきた歴史があり、鉱山の跡地を棚田に再生し、採掘のための水路やため池を再利用するなど独自の土地利用により稲作や畜産を中心とした複合的な農業が営まれ、景観・地形がユニークであることが評価されました。

日本農業遺産の認定を受けて、農産物のブランド化や交流人口の拡大を目指し、奥出雲の食と農の魅力、たたら製鉄の歴史文化をさらに情報発信してまいります。

特に、奥出雲町の特産品である仁多米、奥出雲和牛、シイタケ、ソバなどの農林産物の生産振興をはじめ、都市農村交流や観光客の誘致による商工業・観光の振興、また、たたら製鉄や農業とのつながりなど、次の世代への継承に向けて子どもたちへのふるさと学習など進めてまいります。



とあし
奥出雲ウルトラおろち100km遠足

走る100キロ 楽しむ100キロ 光溢れる奥出雲の春

町内全地区を走り抜ける「第5回奥出雲ウルトラおろち100km遠足」の前夜祭が4月12日に、そして、大会が4月13日に開催されました。

前夜祭では、仁多米おにぎりや地酒を堪能し、深田英治一座による「安来節の唄やどじょう掬い」を見たり、体験しながら、選手同士や町民の方々と交流を楽しみました。

翌日の大会には、全国各地から100kmの部に574人、60kmの部に202人が参加し、制限時間となる午後9時までにゴールである役場横田庁舎を目指しました。

選手たちは、朝夕の寒さと日中の暑さの気温の変化やアップダウンの激しいコースを走りながら、19箇所あるエイドステーションで舞茸おにぎり、甘酒、割りそば、ジビエ肉焼きそばなどの奥出雲町の特産品を堪能していました。

100kmの部では、1位の選手が7時間39分という大会新記録を打ち出されました。大会全体の完走率は、100kmの部が86%、60kmの部が90%という結果となりました。

沿道には応援旗を持ち、選手にエールを送る姿が数多く見受けられました。ゴール後の選手のインタビューで、沿道からの熱い声援が嬉しかったという声が多く上がっていました。

100km遠足を通して、奥出雲町のおもてなしに満足され、選手の方々は帰路に着かれました。



▲早朝5時にスタートした100kmの部の選手。中間地点である役場仁多庁舎へ到着。



▲沿道の声援に応える選手たち。



▲エイドステーションで栄養補給する選手たち。



▲役場横田庁舎がゴール。100kmを制覇。

日本消防協会特別表彰纏展示用ケース贈呈式



▲仁多地域消友会より贈呈された纏の展示用ケース

4月10日、仁多地域消友会から奥出雲町と奥出雲町消防団へ日本消防協会特別表彰纏の展示

用ケースが贈呈されました。

本表彰纏は、永年にわたる火災予防活動、有事における初期消火活動などの功績と消防団員の規律向上、士気高揚に努めた消防団に対して日本消防協会より贈られるものであり、平成12年度日本消防協会定例表彰式において仁多町消防団へ授与されていました。今後は、奥出雲町役場仁多庁舎のタウンホールで展示ケースに収納していますので、消防団の輝かしい歴史をご覧ください。